

土曜日の外来

土曜日の小児科外来は、ほかの日とちょっと違っています。週休2日制が進んできて、お父さんがお子さんを連れてこられことが多いのです。

もちろん、だいたいのお父さんはお子さんの様子は良く分かっているのですが、でも中には、連れてきただけの方も見受けられます。こちらが質問しても、的確に答えていただけないと、診療に困ってしまうこともあります。

お父さんの子育て参加、大いに賛成。でも、お子さんの様子を良く見たり、家での様子をきちんと聞いてきてくださいね。

診 察 を 受 け る と き

小児科は、生まれたすぐの赤ちゃんから、中学生(15歳)くらいまでの子どもたちを対象に診療しています。

とくに、自分では症状を言うことができない小さな子どもの場合、連れてきてくれる大人の方が、気のついたこと、心配なことなどを上手に伝えてください。



診察を受けるとき

つれてくる人

できるだけ、お子さんの様子を一番よく知っている人がつれてきてください。

誰かに頼むときは、様子をよく伝えて、細かいことはメモして渡すなどしていただくと、診療に役立ちます。情報が少なかったり、あいまいだと、診療に苦労することがあります。

持ってくるもの

- ①保険証、母子手帳、診察券、受給資格証など。
- ②熱のある子は、メモや熱型グラフがあると、とても助かります。
- ③便がおかしいときには、その便を見せてください。
- ④ほかでもらっている薬があるときは、わかれればその名前を教えてください。実物をもってくてくれると、分かるときもあります。
- ⑤ミルク、哺乳瓶、オムツ、着替え、お気に入りの絵本やおもちゃ。（衛生上の問題や事故の心配があるため、ミルク用の湯冷ましは、とくに用意していませんが、もし必要なら職員にお話しください。）

診察室で教えてほしいこと

- ①一番気になる症状は何ですか？
- ②その症状はいつからですか？
- ③そのほかに気になることはありますか？
- ④今までにかかった大きな病気、薬のアレルギー、家族に同じような症状がなかったか、なども教えて下さい。

待合室で

- ①診察前に食べ物や飲み物を与えないで下さい。口の中がよく見えなかったり、口を開けたときにのどにひっかかる事故をおこすことがあります。
- ②オシッコがしたくなったときは、看護婦に知らせて下さい。腹痛、女の子のおりもの、男の子のオチンチンの痛み、などで調べることがあります。
- ③吐いた、お腹がすごく痛い、ゼイゼイとしていて息が苦しい、ぐったりしている、など、具合がとても悪いときは、遠慮せずに申し出て下さい。順番を早めたり、別は部屋で休んでいただいたりすることができます。